2023年度学内研究助成 成果報告書

① 報告者所属・氏名

生活科学部生活文化学科・髙橋桂子

② 事業名

金融リテラシーの高い高齢者は特殊詐欺の被害者になりにくいのか

③ 事業の目的

近年、特殊詐欺被害が社会問題になっている。特殊詐欺の被害者は圧倒的に高齢者であり、とくに 70 歳以上の女性が占める割合は 8 割弱と極めて高い。既遂認知件数や被害総額は減少傾向にあるものの、1件当たりの平均被害額は約 220 万円に及ぶ(警察庁 2020)。警察庁や地方自治体などが広報や消費者講座などを通して活発な啓発活動を行っているが、特殊詐欺被害は下げ止まりをみせる様子がない。

先行研究では、Lusardi et al. (2018)に代表されるように、金融リテラシーが高いほど特殊詐欺に遭う確率は低下するものが多いが、ある特殊な状態に陥った人間の行動に影響を与える要因はリテラシーの高低より、心理要因、心理状態に着目することが必要と考える。そこで本研究では、心理状態、具体的には「感情覚醒」や感情覚醒時の「意思決定」に注目したアンケート調査を高齢男女を対象に実施して検討する。

④ 事業実績・研究成果（具体的に）

調査 1：感情覚醒、意思決定に着目したアンケート調査を実施(55 歳以上の男女、n=600、2023 年 12～2024 年 1 月、委託先：Freeasy)。

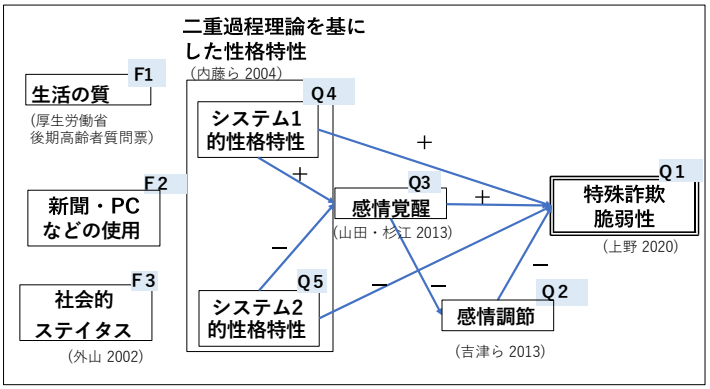

図 1　研究の枠組み

表 1　「特殊詐欺脆弱性」：回帰分析結果

変数名	詐欺脆弱特性	95%下限	95%上限	VIF
年齢	-4.185	-9.332	0.962	962.394
年齢2乗	4.219	-0.926	9.364	961.736
ストレス思考回避	-.306 **	-0.477	-0.135	1.062
動揺回避困難	.332 **	0.088	0.575	2.149
行動コントロール困難	.109	-0.138	0.356	2.217
直観の必要性	.080	-0.094	0.254	1.097
論理思考	.066	-0.127	0.259	1.349
R^2	.301 **			

$^{**}p < .01, {}^{*}p < .05, {}^{+}p < .10$

調査 2：調査１の結果をもとに調査票を精査し、調査１改訂版に金融リテラシー項目を加えたアンケート調査を実施（65-79 歳男女、n=2700、2024 年 3 月、委託先：メルリンクス）鋭意分析中である。

⑤ 研究成果の発表・活用（学会発表・論文掲載・地域連携・産学連携など）

【学会発表】

髙橋桂子・阿部信太郎・猪瀬武則(2024)感情調整の在り方が特殊詐欺脆弱性に与える影響、経済教育学会春季大会(京都大学、03/02)

【エントリー済】

Takahashi Keiko, Impact on special fraud vulnerability among the elderly in Japan: economic and psychological variables, IAFICO 2024 Global Forum for Financial Consumers (USA, August 8-10)

⑥ 今後の展開・継続性について

高齢者を対象とした特殊詐欺被害は経済学領域、心理学領域双方から検討する必要があるテーマと考える。アンケート調査に加えて、日野市などの高齢者を対象としたアウトリーチ活動を通して、他の要因について探っていく予定である。